

平成21年 5月29日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520140

研究課題名（和文）総合雑誌における占領期検閲と文学との相互関連性の研究

研究課題名（英文）Reciprocal Interactions Between Censorship and Literature
in Occupation period General Interest Magazines

研究代表者

十重田 裕一（TOEDA, Hirokazu）

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：40237053

研究成果の概要：

本研究では、占領期日本における文学研究の一環として、総合雑誌・文芸雑誌を中心に、この時期の雑誌全般に焦点をあてた。三年間の研究を通じて、第一に雑誌において行われた占領期の検閲の実態を調査すること、第二にそこで得られたデータをもとに、作家・作品とメディア・編集者・出版社との相互関連性を総合的に解明することを目的とし、その結果、GHQ/SCAPの検閲と占領期の文学の状況を立体的に浮かび上がらせる基盤を整備した。成果の一部は、『占領期雑誌資料大系 文学編』全5巻（岩波書店、2009-10年）に示される予定である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	540,000	3,840,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：(1) 日本近代文学(2)雑誌 (3)メディア (4)占領期 (5)検閲

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、第二次世界大戦後、日本の占領期の文学研究への関心は少しずつ高まってはいたが、実際の研究は著についたばかりであった。さらに、作家・作品とメディア・編集者・出版社との相互関連性という視点からの研究は、資料面の制約もあって、未開拓であるといっても過言ではない状況にあった。

そのような背景もあり、作家・作品に限定することなく、雑誌というメディア・編集者・出版社と文学との相互関連性という視点から、占領期の文学にあらわれた問題を具体的な資料に基づいて総合的に解明することは、重要な課題であった。したがって、研究開始当初においては、以上のような視点からの研究プロジェクトが、急務であると考えられたのである。

このような研究課題を立てることが可能となった背景には、占領期メディア研究の主導者・山本武利（早稲田大学教授）が主宰する「占領期雑誌研究会」に所属し、他分野の研究者との意見交換ができる研究環境があった。さらに、20世紀メディア研究所で製作された「占領期新聞・雑誌資料データベース」を活用したことが、本研究テーマを進めるにあたって、大きなプラスとなった。

また、膨大な資料からは、本研究が単独ではなく、研究チームを組んで推進する方が、よりよい成果が現れやすいと同時に、公共性をもつと判断された。したがって、後掲の研究協力者の援助を仰ぎながら、研究を進めることになるのである。

2. 研究の目的

本研究における目的は、第二次世界大戦後、占領期日本の文学テキストにうかがえる検閲の特色を、掲載誌および発行元との関係に留意しながら検討することであった。対象としたのは、総合雑誌・文芸雑誌を中心とするこの時期の雑誌全般であり、そこに掲載された文学テキストであった。

研究対象として総合雑誌・文芸雑誌を選んだのは、主要な作家の作品を掲載してきた歴史があるからであり、とりわけ総合雑誌は政論を掲載するマスメディアであることから、占領下において厳しい検閲の対象になっていた。すなわち、総合雑誌・文芸雑誌には、GHQ/SCAPの検閲と文学の表現との葛藤が特徴的にあらわれていると考えられたのである。なお、複数の雑誌を研究対象に選んだのは、各メディアにおける検閲の違いを対照することで、占領期の検閲の個別的で恣意的な側面を照射できるとともに、各メディア間に見られる検閲の差異や齟齬を総合的に検証することが可能となるからである。

以上のような研究の目的から、研究を進めるにあたって、もっとも注目することになったのは、鎌倉文庫という出版社であった。鎌倉文庫から刊行された諸雑誌に焦点をあてたのは、作家が深く関与し設立された出版社であることから、出版社・雑誌・編集者・作家の相関関係を探るうえで、鎌倉文庫は格好の対象となると考えられたからである。事実、占領期日本の検閲の特色を考えるうえで興味深い事例が認められ、そうした具体的事例に即しながら、占領期日本の検閲と文学の特色を考察することが研究の目的となったのである。

3. 研究の方法

研究の方法については、(1)調査方法、(2)国際

的学術交流、(3)他分野の研究成果の吸収、以上の3点に特に留意した。

1点目の調査方法。本研究を実施するためには、戦後占領期の検閲資料を収集したプランゲ文庫の調査が不可欠であった。したがって、長期休暇を利用して、当該資料所蔵先のメリーランド大学マッケルディン図書館ゴードンW・プランゲ文庫の調査を行い、多くの資料を収集することが必要であったが、当初の目的は概ね達成できた。なお、プランゲ文庫所蔵の雑誌資料については、国会図書館、早稲田大学図書館にマイクロフィルムが所蔵されており、基礎資料にこれらを活用した。

2点目の国際的学術交流。本研究を推進するにあたり、優れた日本研究を行っている海外の研究者ならびに研究機関の協力をあおぐことが重要であった。そのため、海外における、マスメディア研究、日本文学研究の最新成果を吸収するため、ハーバード大学、コロンビア大学等での研究上の調査、意見交換を予定し、アメリカ合衆国の日本学研究者、アーキビストと研究上の有意義な交流を行うことができた。

3点目の他分野の研究成果の吸収。本研究に関連する他分野の先行研究で、もっとも重視すべきは、山本武利『占領期メディア分析』(法政大学出版局、1996年3月)をはじめとする、メディア論、出版文化論の研究であった。第二次世界大戦後日本の占領期のメディアと検閲に照明をあてた、これらの研究の方法に学びながら、マスメディアと文学をクロスさせた地点に現れてくる、占領期の検閲の具体的な相を解明していくことが、本研究の重要な方法であった。

4. 研究成果

本研究における研究成果は、大きくわけて以

下の3点に整理することができる。

1点目は、後掲の研究論文および学会発表である。本研究の進行と呼応して公表した研究成果の内容は、占領期文学の検閲の研究ばかりではない。対象とする領域に狭く限定することなく、深く関連する時代、あるいは隣接するテーマにかかわる研究成果も選定し掲げた。

2点目は、基礎資料の収集と整理の成果が、今年度から刊行開始となる『占領期雑誌資料大系文学編』全5巻(岩波書店、2009-10年)に結びついたことがあげられる。山本武利(早稲田大学教授)を代表とし、川崎賢子(文芸評論家)・宗像和重(早稲田大学教授)・十重田裕一を編者に、後掲する研究協力者などがチームとなり、研究が進められた。現在でも継続的に行われているこのプロジェクトは、本研究の重要な成果のひとつである。

3点目は、米国コロンビア大学で開催された、国際シンポジウムの企画と研究発表(基調講演)である。本研究で重視したことのひとつに、「研究の国際性」があった。それを実現するべく、鈴木登美・コロンビア大学教授と国際シンポジウムを計画し、本研究にかかわる研究者を世界各国から招待し、2009年3月6、7日の2日間にわたり、コロンビア大学で会を開催した。本研究の協力者である、時野谷ゆり、Anri Yasuda、Robert Tuck、Nathan Shockeyの4人もこの国際シンポジウムで研究発表を行い、本研究の関連する成果をそれぞれ公表した。なお、この国際シンポジウムの成果は、英語版・日本語版で公にすることを検討中である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には
下線)

[雑誌論文](計5件)

十重田裕一

引き裂かれたメディア・イメージ・本文
編集と検閲の視点をてがかりに(日本語版)
pp.137-140, Problematising Text and
Media:Editing and Censorship (英語版)
pp.121-123 2009年5月,越境する日本文学研究
カノン形成・ジェンダー・メディア(日
本語書名),New Horizons in Japanese Literary
Studies:Canon Formation,Gender,
and Media(英語書名) 勉誠出版 査読なし

十重田裕一

文芸雑誌「人間」にみる事前検閲と事後検閲
の光と影 pp.4-11 2007年4月 Intelligence 8
号 20世紀メディア研究所 査読あり

十重田裕一

一九二六年日本、文学と映画の遭遇 pp.5-17
2008年10月 比較文学研究第92号 東京大学
比較文学会 査読あり

宗像和重・十重田裕一

モダニスト松本清張 マス・メディアとの
相互関連性をめぐる研究 pp.38-63 2007年6
月 松本清張研究8号 北九州市立松本清張記
念館 査読なし

十重田裕一

「旅愁」さまよえる本文 pp.130-141 2006
年4月 横光利一の文学世界 翰林書房
査読なし

[学会発表](計2件)

十重田裕一

Censorship and Literary Expression
in Occupation-Period Magazines :On the
Kamakura Bunko Magazines 2009年3月6,
7日 International Symposium at Columbia
University "Censorship, Media, and Literary
Culture: From Edo to Postwar"

十重田裕一

Media,Image,and Text Apart : Perspectives of
Editing and Censorship as Clues 2007年6月23日
Asia Studies Conference Japan2007

6. 研究組織

(1)研究代表者

十重田 裕一(TOEDA HIROKAZU)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号:40237053

(2)研究協力者

宗像 和重(MUNAKATA KAZUSHIGE)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号:90157727

川崎 賢子(KAWASAKI KENKO)
文芸評論家・早稲田大学非常勤講師

上牧瀬 香(KAMIMAKISE KAORI)
早稲田大学本庄高等学院教諭

塩野 加織(SHIONO KAORI)
早稲田大学大学院博士課程

滝口 明祥(TKIGUCHI AKIHIRO)
学習院大学大学院博士課程

時野谷 ゆり(TOKINOYA YURI)
早稲田大学大学院博士課程

兵頭 かおり(HYODOU KAORI)
神奈川県立上矢部高等学校教諭

Shockey, Nathan
コロンビア大学大学院博士課程

Tuck, Robert
コロンビア大学大学院博士課程

Yasuda, Anri
コロンビア大学大学院博士課程